

のぼりべつ

のぼりべつ 広報

人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のぼりべつ

7月31日(日)、しんた21で「第3回デイ・サービス祭り」が開かれ、屋台コーナーや演芸発表会など楽しい催しが行われました。

この日のために練習を重ねてきたお年寄りは、自慢の歌声やダンスを披露し、会場は笑い声と大きな拍手に包まれました。



特集

災害から自分の身を守る

1997 No. 563

9/1

登別市は大雨の常襲地帯

登別市は今まで、大雨災害にたびたび見舞われてきました。昭和36年10月には、死者を出す集中豪雨が、昭和55年8月には全壊家屋や床上浸水の被害を出す大雨が、また、昭和58年9月には、3時間で338mmという国内観測史上3番目の大雨で、登別温泉地区や登別地区、幌別地区に大きな被害が出ました。

これらの経験をもとに登別市は、大雨災害に備えるため、治山事業や河川の改修、排水路の整備を行っていますが、不

4年前の平成5年7月12日、奥尻町を中心として死者・行方不明者229人の犠牲者を出した北海道南西沖地震や、平成7年1月17日、6千人を超える死亡者や行方不明者を出した兵庫県南部地震は、まだ私たちの記憶に生々しく残っています。

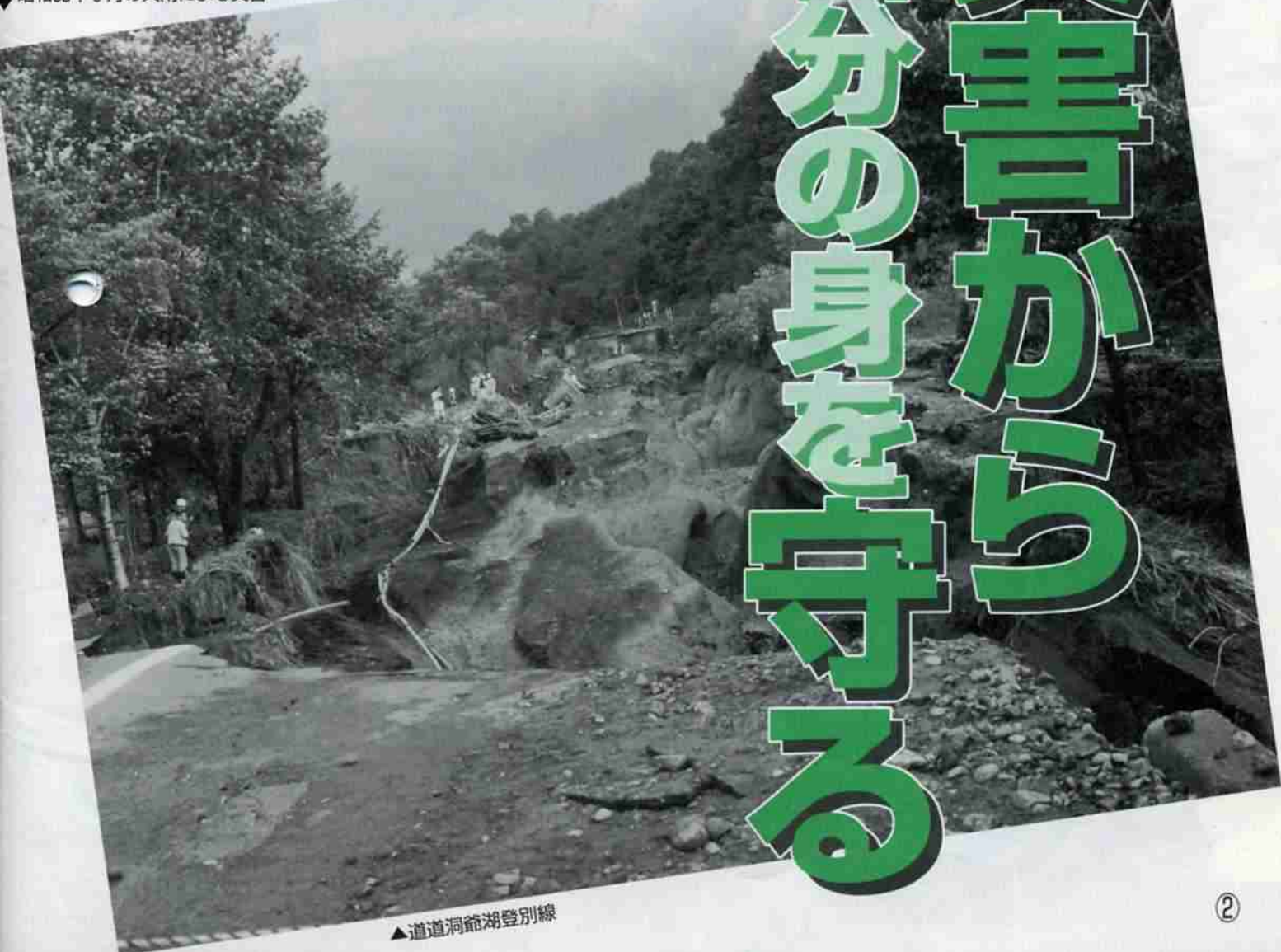
昔から災害は忘れたころにやってくるといいますが、災害への備えを忘れてしまっては、守ることができたかもしれない尊い命や財産を失ってしまうことになります。

今号では、9月1日の「防災の日」にちなみ、防災についてもう一度確認してみたいと思います。



登別東町

昭和58年9月の大雨による災害



▲道道洞爺湖登別線

災害から 自分の身を守る

測の事態に備えるためにはこれで万全というのではなく、これからも、河川の整備や排水対策を積極的に進めていこうと考えています。

市の防災対策の基本 『地域防災計画』

いつ発生するかわからない災害に対して、市は防災訓練の実施やさまざまな防災対策を計画的に行っています。

その対策の基本となっているのが「登別市地域防災計画」です。

この計画の中には、市職員などの非常配備体制や職員の参集基準、活動内容の具体化など、災害時に最も必要とされる初動体制について定めています。

昨年、市は、災害時の初動体制をさらに強化するため、災害危険区域のうち20区域へ、災害時に担当地域の情報収集や市への伝達を迅速に行う「地区防災担当職員」として市職員を配置しました。そのほかにも市は、昨年から今年にかけて、次の防災対策を実施・予定しています。

▼登別市地域防災計画



- ① 白老町と災害時の相互応援協定を締結しました。
- ② 市職員の非常配備体制の整備を行いました。
- ③ 防災会議委員に、JR



職員や郵便局職員、陸上自衛隊の自衛官が参画しました。

④ 多くの観光客を迎え入れている登別温泉地区に、防災行政無線中継無線機を設置しました。

⑤ 災害時に迅速な情報伝達や収集を行うため、地区防災担当職員に携帯型防災行政無線機と腕章の貸与を予定しています。

⑥ 防災協力員に腕章やヘルメット、ハンディライトなどを貸与します。

⑦ 応急対策のための毛布やアルファ米、乾パンを計画的に備蓄しています。

⑧ 給水タンクや給水タンク積載用車両などを配備しました。

⑨ 警備消防支署横と富岸地区に大容量防火井戸を新設します。

(警備消防支署横には、昨年設置しました)

防災体制を常に見直す

防災体制に「これでよし」ということ

はありません。

市は、今後とも社会や経済の状況の変化をとらえて災害予防対策を進め、防災訓練の実施結果や他市の災害による事例などを見ながら常に、見直しを行っていきます。

みんなで防災を 考えてみませんか

防災は、市が行っていれば万全というわけではありません。

個人や地域ぐるみで防災について考え、備えていくことがとても大切です。

一人ひとりが、地域が、行政と一緒に防災に取り組んでいくことで、最大の効果を発揮するのです。

それでは、個人や地域の防災活動とは何をすればいいのでしょうか。

自分の命は自分で守る

行政が防災体制を強化しても、天変地異などの発生そのものを防ぐことはできません。そして、初動体制を充実しても、災害が発生してから、一瞬のうちに人命を救うことは難しいことです。

自分の命や財産を守るには、一人ひとりが災害に備えることが必要です。

生きていくうえで、必要なものを非常持出品袋に入れ用意しておく。防災の最初の一步は、私たちの家庭から始まりま

す。非常持出品袋の中には、ラジオ、懐中電灯、下着類、印鑑、預金通帳、保険証、

『大雨災害に注意を』

大学では地盤災害を専門に研究をしています。私たちは、登別市一帯を恵山町(渡島支庁管内)と大樹町(十勝支庁管内)と合わせて三大多雨地帯と呼んでいます。

雨が多い理由として、登別市の特徴のある地形に原因があります。南側(海側)から低気圧が通過すると登別岳やカムイヌプリ、来馬岳、オロフレ山などの山に上昇気流がぶつかって大雨を降らせます。そのため、登別の過去の災害は大雨によるものが多いのです。

このごろ、総雨量で100mm以上の大雨が降っても、住民のみなさんはそんなに驚かなくなっています。ですが、平地に降るか山に降るかで災害の発生にもいろいろあるのです。油断は禁物です。



あきら
とう
む 武藤 章さん
(室蘭工業大学教授)

山に大雨が降ると土石流災害の発生が一番恐ろしいです。土石流災害の前触れとしては、「立ち

木の裂ける音が聞こえる」「水の流れがふだんの流れと変わった」「澄んでいた川の水が急に濁った」といったことがありますので注意してください。地震に関しては、登別地域には活断層は確認されていないので、直下型地震の発生は考えにくいと思います。しかし、絶対ないといいきれません。

災害時に我が身を守るのとは自分と考える、行政を頼りにせず、日ごろから自分で安全対策を行うことが重要だと思えます。また、津波警報が出たときは、海岸に近付かないというのが当然ですが、川を津波がさかのぼることもあり得ます。津波警報が出たときにはすぐ河原から離れてください。

水筒（この中には飲料水をいれておきましょう）、ビニール袋、ティッシュペーパー、ライター、2〜3日分の食べ物（カップ麺やビスケット、乾パンが重宝します）、現金（公衆電話を利用するときの10円硬貨も忘れずに持っていきましよう）を入れておきましょう。

災害時にはいつも 的確な情報を

災害時には、デマに惑わされずに、正確な気象情報や災害情報をつかんでおくことが重要です。それには、テレビやラジオが有効です。耳と目を大きくして気象や災害情報を先取りしましょう。

避難場所の確認を

市内には、災害のときに一時的に避難する広場や公園、グラウンドなどを屋外避難所（第1次避難所）として設定しています。

また、避難した方を収容する施設に、小・中学校や老人憩の家、婦人研修の家などを屋内避難所（第2次避難所）として開設します。

それぞれの避難場所とその近くには、「避難場所の標識」や「避難誘導標識」を設置しています。自分たちがいざとい



▲避難場所の標識

総合防災訓練で 災害の備え



今年7月25日(金)に富岸小学校グラウンドで、地震・津波・大雨を想定した総合防災訓練を実施しました。

登別市をはじめ、室蘭市や伊達市、消防、陸上自衛隊、室蘭警察署、富岸地区連合町内会、北海道電力などの関係機関が参加し、避難訓練や災害復旧の訓練、ヘリコプターによる負傷者の搬送、火災消火の訓練など、参加者は真剣な表情で取り組んでいました。

うときに、どこに避難すればいいのか、近くの避難場所を確認しておきましょう。なお、避難場所の一覧は、今年度配付予定の市民便利帳に掲載します。

自主防災組織で 地域を守る

一人ひとりの防災対策の次は、みんなで協力して地域の防災を強化していく必要があります。

地域の人たちが力を合わせて防災活動を行えば、いざというときに心強いものがあります。

災害のときに、それぞれの家庭がバラバラに活動しては、地域の混乱は収まらず、素早い対応をすることができません。地域に住む方が、互いに協力しあい、地域全体の安全を守り、防災活動を効果的に行う。そのための組織が「自主防災組織」です。そこで市は、組織の設立に向けてさまざまな応援をしています。たとえば、自主防災組織に対して無線

などの貸与を行ったり、「防災資機材」を購入するときの補助制度を設けています。「自主防災組織」の設立は、地域のみなさんが、本当にその必要性を感じ、協力しなければなりません。設立にあたっては、市の防災担当（総務課 ☎1130）が、方法や実施地区の事例などの相談をお受けしますので、お気軽にお問い合わせてください。

災害の恐ろしさを 忘れてはいけません

私たちが、災害がもたらす恐ろしさを、テレビや新聞で知ることができます。しかし、その本当の恐ろしさは体験しないとわからないのかもしれない。しかし、防ぐことができるかもしれない災害を体験してからは、すべてが手遅れです。

私たちは、これまでに起きた災害を教訓に、そして、災害の犠牲になった方の死を無駄にしないためにも、真剣に防災に取り組んでいかなければなりません。

自主的な防災活動を目指します

富岸地区では自主防災組織をつくりました。7月25日の富岸小学校で行われた防災訓練が、連合町内会として最初の実践活動です。

避難訓練には約100人が参加し、避難をするときの道順や時間の確認がきちんとできました。

地区防災担当職員（市職員）と地域住民が一緒に防災訓練に参加し、非常時の備えをするのはとても良いことで、防災意識の向上に役立ちます。

万のときには、住民が自主的に行動し、一人ひとりが力を合わせていかなければなりません。



川口勝己さん
(富岸地区連合町内会防災委員長)

今回の自主防災組織の設立では、「自分のことは自分で管理する」を基本に、連絡体制を決め災害時に混乱しないように体制を整えています。組織上ではリーダーが必要ですが、上下関係をつくらずに横のつながりを大事にしていこうと考えています。地域のみなが防災に取り組み、協力して防災組織に参画できれば素晴らしいことだと思います。時間がかかっても、住民参加型を目指して住民同士で話し合いながら防災意識を高めていきたいですね。

災害を 発見したら?

災害が起こりそうなきや災害を発見したときはすぐに、119番(消防)か110番(警察)、または☎2-111(市役所)へ連絡してください。また、各町内会の防災協力員も通報を受け付けています。

これからの公立高等学校に求められるものは？

近年の少子化による生徒数の減少期に対応し、生徒が魅力を感じて学べる公立高校の在り方を考えるため、市内の教育関係者や市民、関係機関の方を委員とする登別市「公立高等学校の新しい在り方を考える会（若井重憲座長）」が今年の4月23日に発足しました。

『考える会』の趣旨は？

現在、高等学校には中学卒業者の約97%が入学し、多様な学習ニーズに応じて個々の生徒の能力を伸ばしていく教育が求められています。



▲中・高校生集い

また、中途退学者の増加や中学卒業者の減少などの問題を抱え、適正間口（418間口）の維持が難しい状況になっています。胆振第一学区（登別市、室蘭市）でも中学卒業者は減少傾向にあり、平成16年までには587人、登別市では102人減少すると予測されています。

これらの状況から高校では、生徒が魅力を感じ、興味や関心のあることを生き生きと学習でき、自ら個性を伸ばし発揮できるようにしていくことが大切です。また、登別の高校として、地域の特色を生かしていくことも求められています。

教育委員会は、幅広く市民の意見を聞くため、市民組織「考える会」を設置しました。

どんな活動をしているの？

『考える会』では、これまで5回にわたる会議のほか、さまざまな活動を展開しています。活動内容としては、多くの方の意見をお聞きするために、『中・高校生集い』『市民集い』を開催し、市内の現役中・高校生や市民を対象にしたアンケート調査の実施、特色のある先進的な教育を

推進している高校の視察・見学などを行っています。アンケート調査や各種の集いからは、「普通科だけでなく、将来社会に出て役立つ学習のできる多くの学科があってほしい」「自分の個性を、伸ばすことができる学習をしたい」「試験の点数だけでなく、人間性をもっと重視するような高校教育を」などの意見が中・高校生から見られました。

市民の中からは「就職に有利な職業科など、地域に根ざした特色のある学校を設置してほしい」「30人学級にしてゆとりある教育を」などの意見が見られました。

『考える会』では、これらの意見を参考にして、「普通科の内容を存続し、生徒の学習ニーズや進路希望に応じて、科目や学科を選択できるようにする」「地域密着型の形態を重視する」など人間性をより豊かにする魅力ある高等教育について議論を重ねています。

まとめられた構想はどうなるの？

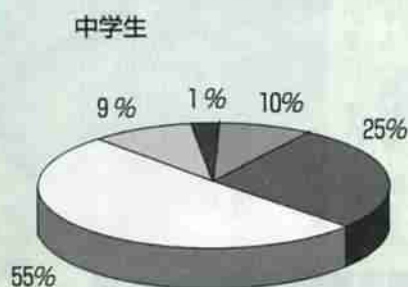
教育委員会は、『考える会』がまとめた構想をもとに、登別市の最終的な意向として、設置者である北海道教育委員会に要望していきます。

中・高校生アンケート調査結果

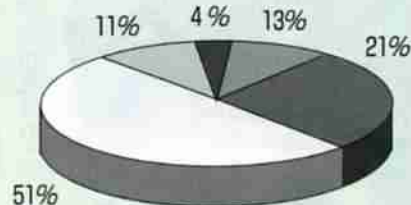
対象者 市内の中学3年生と公立高等学校2年生全員
回答者数 中学生673人中617人、高校生304人中255人

設問

将来どのような高校があれば良いと思いますか

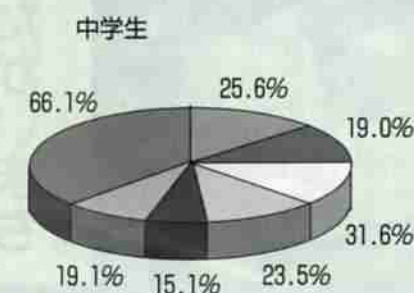


高校生

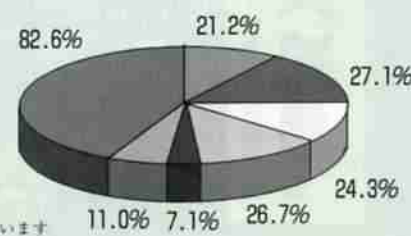


設問

高校にどんな学科があれば良いと思いますか



高校生



※グラフ内の合計百分比は2個選択回答のため200%になっています

西

東



「登別グリーン・ピア サマーフェスティバル」が8月2日(土)と3日(日)の2日間、若草中央公園を会場に行われました。

このフェスティバルは、グリー

楽しい夏休みだったよ!

インピア商店会と地元町内会が共同で行う新生・若草地区住民手作りの夏祭り。好天に恵まれた今年、うちわ片手に夏の涼を求める多くの市民が訪れ、金魚すくいやかき氷などの露店を楽しむ夏休み中の子どもたちや家族連れなどにぎわいました。

3日(日)に行われた「キャラクターショー」では、テレビの人気者が登場するとあって、待ちに待った子どもたちは真剣な表情でステージを見つめていました。

また、この日たくさんのお客を集めた「よさこいソーラン」では、室蘭市の「百花繚蘭」と地元登別市の「のほりべつ舞・舞・舞」の2チームが会場。会場を埋め尽くした大観衆は、踊りが終わるたびに盛大な拍手を送っていました。



笑顔が支えるボランティア

8月7日(木)から3日間、泊まり込みでボランティア体験をする中学生ワークキャンプ研修会がしんた21で行われました。

この研修会は、夏休みを利用して、生徒たちがお年寄りや障害をもつ方とのふれあいを通して、ボランティア活動に取り組みきつけをつくるため、平成4年から行われています。

今年、登別中学校の生徒10人が参加し、デイ・サービスなどの介助を通してボランティア

を体験しました。

1日目は、デイ・サービスでの食事、入浴の介助について事前講習を受け、2日目と3日目は、デイ・サービス利用者の介護や、視力障害者協会の方を交えた体験学習などが行われました。

普段、お年寄りと接する機会が少ない生徒たち。最初は戸惑いながらも、デイ・サービスのレクリエーションでは、お年寄りと一緒にカラオケを楽しみました。

体験学習を終えた生徒たちは、



「入浴介助をしたおばあちゃんに『ありがとう』と言ってくれたことがうれしかったです。」

「ボランティアとは、『手伝ってあげる』のではなく、『手伝おう』という気持ちが大切ということがわかりました。」と福祉の心を学んでいました。

みんなできつくるあつたかいまち

8月1日(金)から31日(日)にかけて、ボランティア活動に興味のある方や活動を始めたいと考えている方が、気軽に体験できる「ボランティア体験月間97(社会福祉協議会主催)」が開催されました。

体験月間初日には、高齢者や障害をもつ方の家に、手作り弁当を持って訪問する「高齢者・障害者宅訪問体験」が行われました。

参加した小学生や高校生は、しんた21の調理実習室で、栄養や味付け、カロリーなどに配慮した高齢者向けの弁当を作り、訪問宅と一緒に食事をしながらなごやかに歓談しました。「歯が悪くても安心して食べられ、とてもおいしい。こうして話しをしていると、まるで孫にお弁当を作ってもらったみたいだね。」と訪問宅のお年寄りは大喜び。



さんと高橋信恵さんは「とても貴重な体験でした。これからは、目の不自由な方に出会ったときは自分から進んで声をかけてあげたいと思います。」と話してくれました。

約150名の市民が参加したこのボランティア体験月間では、デイ・サービスや点字・手話の体験、特別養護老人ホーム「緑風園」・養護老人ホーム「恵寿園」・老人保健施設「グリーンコート三愛」での1日体験、病院に入院している方の日常生活援助体験など、約30種類の体験コースが行われました。





8月19日(火)、登別観光協会主催の湖水まつり・クッタラ湖灯ろう流しが、倶多楽湖畔で行われました。灯ろう流しは、登別温泉に縁のある方が、先祖の霊を祭るために行っているもの。この日は、湖畔のレークハウス横に設けられた祭壇に、色とりどり約400個の灯ろうが供えられ、約150人の参列者が供養をした後、10隻のボートに分乗した同協会の関係者が、

灯ろうを湖面に浮かべました。暗い湖面を漂う灯ろうに、市内や室蘭、札幌から訪れた参列者は手を合わせて先祖の霊を送っていました。岸辺では、打ち上げ花火大会も行われ、灯ろうにともされたろうそくの明かりと、湖面に映る花火が幻想的な美しさを醸し出していました。

子どもたちの夏休みも終わり、訪れる秋の気配を肌で感じる1日でした。



ぼくらの真夏の冒険

8月1日(金)から3日(日)の2泊3日の日程で、鉾山町の市民研修センターを会場に「まるごとアドベンチャーライフ(ふるさと広場実行委員会主催)」が行われ、小・中学生39人が参加しました。



このアドベンチャーライフは、小・中学生が自然とふれあうとともに仲間との交流を深めるため、3年前から行われているもので、参加者の募集を開始してから30分で定員に達したほどの人気の高い体験学習事業です。

夕食後の、昔なつかしい竹とんぼづくりでは、普段使ったことのない小刀に悪戦苦闘。郷土資料館ボランティアの指導でようやくできあがった竹とんぼを飛ばして子どもたちは満足そうでした。

初日は、全日程の説明を受け、グループづくりなどをしました。2日目には、登別釣り振興会の協力で、にじます釣りに挑戦。釣ったにじますを慣れない手つきでさばき、塩焼きにして「おいしいー」とにんまり。

最終日の沢登りでは、登別山岳会の協力を得て、幌別川支流の通称裏沢を登りました。「沢登りでは、すべりそうになったり、ロープを使って滝を登ったりでちょっと怖い思いをしました。腰まで水につかって川の中を歩いた後、お昼に食べた山岳会手づくりのソーメンがおいしかったです。新しい友達もいっぱいできて、来年もいっしょに來たいな。」と、一夏の冒険を終えた子どもたちの日焼けした顔が印象的でした。

全道の野球少年が大集合!

7月25日(金)、川上公園野球場で第17回全日本学童軟式野球大会北海道大会が開幕し、同球場のほか、5月にオープンした岡志別の森運動公園野球場など三会場で、4日間

にわたり熱戦が繰り広げられました。開会式では、道内から地区予選を勝ち抜いた28チーム、約500

人の小学生が堂々の入場行進。室蘭支部代表として、地元登別市からは、柏木ジュニアーズと鷺別ラシナイズの2チームが出場し、柏木ジュニアーズ主将の齋藤悠太くん(幌別西小学校6年生)が選手宣誓を行いました。

大会には、稚内や根室から10時間近くかかって登別にやってきたチームもありましたが、選手たちは疲れも見せず、小学生とは思えないファインプレーの連続に、応援に駆けつけた父母たちは大きな



齋藤 悠太 くん

声援を送っていました。

初日に行われた試合では、鷺別ラシナイズが釧路支部代表に1回戦で敗れましたが、柏木ジュニアーズは27-0の5回コールドゲームで夕張支部代表に圧勝。しかし、2回戦で遠軽支部代表に6-0で惜しくも敗れました。



冒険を終えた子どもたちの日焼けした顔が印象的でした。

市民リポート

『血いぢぢいじの楽しわ』 生涯学習は生涯“楽”習



市民リポーター

磯野みゆきさん
(千歳町・36歳)

どうして学ばないの？

「生涯学習は、どこでも行うことができます。自宅で自分の趣味や特技を磨くのもいいし、仲間と一緒に市民会館や公民館、図書館などを利用して活動するのもいいですね。また、自然の中の活動も考えられますし、民間のカルチャーセンターの利用などもあります。生涯学習は、充実した人生を送るために、とても重要です。」

何を学んでいるの？

生涯学習の意味と学習の場を知った私は、市の事業としてどんなことが行われているのか調べてみました。ここでは、代表的なものを4つ紹介します。

◎**婦人短期大学**
登別市に居住する女性を対象として、市民会館を中心に、毎月2回程度の講座を2年間にわたり受講することができま

す。

歴史、英会話、心理学、生活文化、健康、ボランテアの6講座の中から複数の講座を選択できます。

現在、33歳から73歳までの女性168人が受講しています。



▲老人大学の「世代間交流」

「人生八十年時代」とよく言われます。昔に比べて平均寿命が伸びている今日では、余暇を有意義に過ごすために、多くの方が「充実した時間を送りたい」「何か趣味を持ちたい」「もっといろいろなことを学びたい」と考えていることと思います。

最近では、経済的な幸福よりも精神的なゆとりが見直されてきています。私は、サークル活動でマイプラン講座を利用したことがあり、このマイプラン講座が生涯学習の一つであることを知りました。

近ごろ、生涯学習という言葉をよく耳にします。でも、「生涯学習って、何だろう」と考えてみても、どういものなのかわかりませんでした。

そこで、今回は生涯学習についてレポートすることにしました。

生涯学習ってなあに？

マイプラン講座の申し込みで何度か来たことのある教育委員会に行けば、詳しいことがわかるかもしれないと思

い訪ねてみました。

そこには、登別市の生涯学習を推進し、さまざまな事業を行っている生涯教育推進室や社会教育課があり、社会



▲教育委員会職員菊崎さんに話を聞く磯野さん

教育主事の菊崎さんに「生涯学習」について、お話を聞きました。

「学習」と聞くと、とても堅苦しく感じますが、簡単に言うと、知識や技術を身につけることを言います。私たちは、生活の中で知らないうちに、さまざまなことを学習しています。生涯学習の考え方は、私たち一人ひとりが、自分の意思で、自分にあつた方法や手段を見つけ、生涯を通じて行う学習ばかりではなく、スポーツや文化活動、趣味や特技を生かした活動、レクリエーションやボランティア活動などを通して学習することも、生涯学習としてとらえることができますよ。」



▲若草つどいセンター(右上)でのマイプラン講座

▼婦人センター

▼市立図書館



▲鷺別公民館

婦人短期大学を卒業し、聴講生として受講している関美枝子さんにお話を聞いてみました。

「家に閉じこもってはいけません、なかなか新しい発見をすることはできません。多くの人たちと出合い、いろいろな話を聞くことで、自分にとって大変プラスになることが多いと思います。私は、この婦人短期大学で、さまざまな講義を受け、世代の違う多くの人たちと出会うことで、新たな自分を発見することができました。」

◎老人大学

登別市に居住する60歳以上の方を対象として、市民会館を中心に、4年間にわたり受講することができます。

高齢者同士の親しくと生きがいづくり、新たな時代に対応した知識や教養を身につけることを目的としています。

学習には、市内の小学生と交流する「世代間交流」などがあり、子どもたちと昔の遊びを伝えたり、一緒に給食を食べたりして楽しめます。

◎公民館講座

興味のあることや趣味の知識を深めたり、楽しみを分かち合える仲間づくりをめざすための講座です。

今年度は、子育てセミナー、初級・中級の英会話教室、小学生を対象とした「くまさん博士講座」やそば打ち教室などさまざまな講座を開講します。

公民館講座は、私たちが学びたいと思うものを体験する場としての入門的な講座です。公民館講座の受講後にサークルを作ったり、自分の趣味を見つけて、充実した生活を送っている方

もいます。

◎マイプラン講座

原則として10人以上のグループやサークル、町内会などが自ら企画して講座や学習会を開くことができます。

開催する場所や時間、学習内容は、自由に設定することができます。また、教育委員会は、自主的な学習会や講座を支援するために、講師の紹介についての相談を受けたり、講師謝礼金を負担してくれます。

マイプラン講座を

利用してみませんか

私も利用したことのあるマイプラン講座では、さまざまな内容の講座が行われています。

実際にマイプラン講座を利用された、若草町の戸札さんを取材しました。

この日の講座は「お菓子作り」。若草つどいセンターを会場に、40・60代の方が15名参加しました。お菓子のおいしそうなにおいのする会場では、講師の方を中心に、楽しそうにお菓子作り

りに挑戦していました。参加された方には、お菓子作りを始めたばかりの方や、熟練された手つきの方もいましたが、みんな一生懸命にレシピ(調理法)にとらめっこ。私も飛び入りでお菓子づくりに参加させていただきました。

できあがったお菓子は、どれも心のもった特級品。とてもおいしかったです。大戸さんに、マイプラン講座の感想をお聞きしました。

「マイプラン講座って本当に自分のやりたいことができるんですよ。以前



▲大戸さんにマイプラン講座の感想を聞く磯野さん

に、マイプラン講座も生涯学習なんだよと教えてもらったことがありました。学習って聞くと、難しかったり、努力しなきゃいけないんじゃないかなって思いますが、生涯学習って楽しいものですよ。今度はマイプラン講座でボランティアにつながることを学んでみたいですね。」と目を輝かせてお話ししてくださいました。

昨年度のマイプラン講座の利用件数は70件、今年度は8月までに22団体の申し込みがありました。

みなさんも、マイプラン講座を利用してみませんか。興味のある方は、教育委員会社会教育課(☎1100)にお問い合わせください。

学びたいと思うものをみんなで企画する。そこで学んだことを、生涯にわたって楽しみながら、趣味や特技として生かせるようになれば、とてもすてきなことだと思います。

生涯学習を通じて多くの人と出合い、一緒に過ごした時間は、お金にかえられない貴重な財産になります。物質的な財産よりも、決して失うことのない心の財産を、私も生涯学習を通して増やしていきたいと思いました。

いきいき ボランティア

『母の故郷で心を磨く』

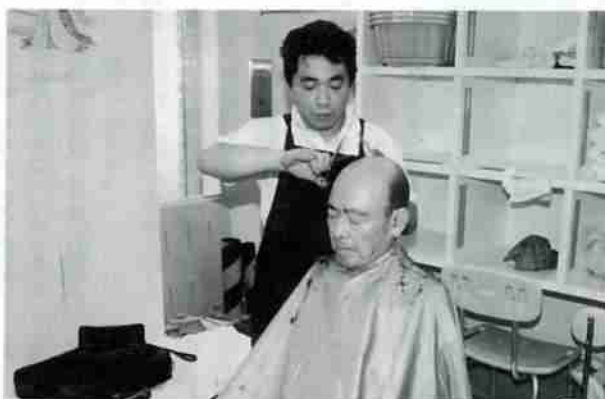


「自分の心の持ち方一つで、人の心に触れることができる。それを実感できたとき、ボランティアを続けていて良かったなと思えました。」と語る登別温泉町の叶内司さん。

高校卒業後、美容師の道を選んだ叶内さんは、札幌や東京で腕を磨いた後、母親の実家がある登別温泉町で店を開き、定休日を利用して散髪ボランティアを行っています。

散髪ボランティアとは、病気や障害などのため外出することができないお年寄りや体の不自由な方を訪問し、好みの髪形にカットする活動で、現在、47人の方が社会福祉協議会ボランティアセンターに散髪ボランティアの派遣を依頼しています。

「今では仕事よりもボランティアが生きがいと言ってもいいです」



ね。ボランティアを始めてからは、仕事のことで行き詰まっても、悩んだりせずに全力でぶつかっていきけるようになりました。依頼者の中には寝たきりの方もいらっしやいますので、散髪だけではなく介助の難しさを学びました。ボランティアは自分のためになりますね。仕事とボランティアを両立させることは難しいかも知れませんが、もっと多くの理容師や美容師の資格を持つ方が、このボランティアに気軽に参加してくれるといいですね。」と語る叶内さんのボランティアは、今年で2年目を迎えました。

▼問い合わせ 登別市社会福祉協議会

ボランティアセンター

☎2080

ちよつとひとこと

楽しかったこと、悲しかったこと、うれしかったこと、市への疑問や意見・要望などを企画広報室へ電話やはがき、封書、ファクスでお寄せください。

企画広報室 中央町6-11 ☎11222 FAX☎1108

犬の飼い主は

モラルと責任を!

広報のほりべつ8月1日号の特集「人間って身勝手だニヤー!」はくたちだっで生きてるんだワシノ!」を「本当にごもつとものだ」と読ませていただきました。私も犬を飼い始めて5年目になります。犬と散歩をしているといたる所に犬のふんがあり、嫌な思いをします。ふんの始末をしないご主人様に飼われている犬は幸せなのでしょう。犬を飼わない方からみれば、たかが犬と思われそうですが人間(子ども)と同じです。ふんの始末をせず、ご近所の方に迷惑をかけている飼い主のせいで、ふんの始末をきちんとしている飼い主は肩身のせまい思いをしています。それと、犬の鎖をはずして散歩している方もやめてほしいのです。私は犬と散歩しているときに、追いかけれれば怖い思いをしました。犬を飼っているもの同士モラルを持ちたいものです。そして、初めて犬を飼っ

たときのこと、かわいらしかった子犬のころを思い出してほしいのです。犬だって家族の一員なのです。責任を持ちましょう! (桜木町 主婦)

市民会館や公民館などの使用料が違うのはどうして?

私は、サークル活動で市民会館や若草つどいセンターなどをよく利用するのですが、施設によって使用料が違うのはどうしてでしょうか。

(若草町 女性)

お答えします

市の施設の使用料は、各施設ごとの経費(人件費や光熱水費など)や施設の稼働日数、稼働時間、面積などをもとに算定されていますので、各施設・各部署ごとに使用料は異なります。

なお、施設使用料の見直しは3年に1度行われ、今年の7月1日から使用料を改定しましたので、ご理解とご協力をお願いします。

(総務部行政管理課)

ちよつとひとこと

紙面上では匿名でも氏名、住所、電話番号をお知らせください。なお、個人や団体への中傷や営利を目的としたお話はご遠慮ください。

ちよつとひとこと

仲間たち

のぼりべし野焼きの会

総務 津村 千鶴子さん

(☎059505)

『夢とロマンを焼きあげる』

「野焼きの面白さは、子どもの泥遊びと同じかもしれないね。仕事や年齢を忘れて土と火に親しみ、自然と一体になり童心に戻る。それが野焼きの魅力ですね。」と津村さん。

のぼりべし野焼きの会は、平成3年4月に約10人の有志により設立され、現在の会員数は39人。年代もさまざまで20代から70代と幅広く、職業や年齢の隔てなく野焼きを楽しんでいます。野焼きは毎年10月の第2日曜日に行われ、会員や家族の方、野焼きに興味のある一般の方が、市内はもとより函館や室蘭から、1年間の思いが込められた作品を持ち寄ります。

「野焼きは焼き物の原点だと思います。縄文時代のころに行われていたと思われる野焼きで、ランプやつばなど現代風のものを作ります。中にはアニメの人気キャラクターもあり、参加した子どもたちは大喜びですよ。野焼きはただ焼き物を作るのではなく、



夢とロマンとそれぞれの思いを一つの作品にするんです。たとえ焼きあがった作品が期待通りのものではなくても、それはそれでいいんですよ。変わり行く季節を体で感じ、紅葉と火が織り成す美しさを参加者全員が共に感じ、お祭り気分でも子どもも楽しめれば最高ですね。野焼きは、技術の優劣を競うのではなく、初心者も熟練者も楽しむことが目的なんですよ。」と津村さんは話してくれました。野焼きに興味のある方は、津村さんまでどうぞ。

がらび

味の秘密は道産大豆

『有機納豆』

道南平塚食品株

(幌別町)

有機肥料で育てた北海道産の大豆を原料とする『有機納豆』。納豆用ではない食用大豆「トヨコマチ」を使っているため、粒が普通の納豆の2倍の大きさと、まろやかな味が自慢です。

「農家に直接作付けをお願いして、有機栽培で育てた大豆を使っています。やっぱり、北海道産の大豆で作る納豆が一番おいしいですよ。今年から、大豆の農法を勉強して、農家の方と相談しながら



もつといいものを作ろうと研究しています。独自の納豆菌も現在開発中なんですよ。」と熱く語る平塚正雄専務。

丸1日水に浸した大豆をじっくりりとふかし、納豆菌をかけ一定の温度で約20時間発酵させると納豆

の完成。市内のほか、室蘭や札幌などに出荷されています。道内、道外にもファンが多く、最近では九州から注文が来ることもあるそうです。

「納豆は、植物性タンパク質の豊富な健康食品で、近ごろは、頭の良くなる食品としても注目されているそうです。私は、毎朝納豆を食べているせいかわずと病気が知らずなんです。みなさんに、納豆の良さをぜひ知ってほしいですね。」と平塚さんは語ります。

平塚さんの有機納豆は、市内のスーパードで販売しているほか、道南平塚食品株でも販売しています。購入希望の方は問い合わせください。

▼問い合わせ 道南平塚食品株
(幌別町4-12 ☎2167)

あなろ



みかめよしみ
三瓶芳美さん
(23歳)

白菊幼稚園勤務

「先生大好き、幼稚園も大好きと子どもたちに言われると、この仕事に就いて本当によかった。」と話す三瓶さん。

幼稚園の先生となって3年目。子どもが大好きで、小さなころから幼稚園の先生か保育さんになるのが夢だった三瓶さんは、明るく元気な子どもたちに囲まれて充実した毎日を送っています。

休日には最近買ったばかりの車でドライブを楽しんだり、大好き

なスポーツで体を動かしてリフレッシュしているとか。

「今は、年長の子どもたちを受け持っています。日に日に成長していく子どもたちを見ているのは、本当に楽しくうれしいんですよ。でも、来年の卒園式のことを考えると、時間が止まればいいななんて思ってしまう。」と、ちょっとさみしそうに笑う三瓶さんの瞳

には、子どもたちの笑顔がまぶしく輝いていました。

キラキラ

『燃えよ剣！敵は己の中にあり！』

黒田喜治さん 猪股隆士さん
 亀谷國夫さん (無双直伝英信流居合、兵法大江派「湖刀会」)

6月30日(月)に、全日本剣道連盟公認の居合道6段の審査が、福島県福島市で行われ、剣の道を極めんとする全国各地の平成の武士御名(うち道内からの受賞者は8人)が受賞しました。高段者の試験だけに難度も高く、晴れて6段の資格を得たのは全国で34人。道内からの合格者は登別市内から受賞した3人のみでした。

見事、6段昇段を果たした3人に話を聞きました。

◎居合を始めたきっかけは

◆「居合を始めたのは、今から17年前の昭和55年。息子を剣道スポーツ少年団・登別練尚館に通

わせていたんですが、物事を成し遂げる大切さを説くには、まず自分が手本をと思い3人そろって『湖刀会』に入門したんですよ。今では私たち3人のほうが、剣の魅力に魅せられ息子たちよりも真剣ですけど。今回の昇段を息子も祝ってくれて、共通の趣味を通して親子の会話もいもんですよ。」

◎6段審査は難関と聞きましたが

◆「6段審査は6分間に形5本の演武を行うんですが、審査は形が完璧にできたからといって合格できません。姿勢や歩き方はもちろん、剣先からほとばしる気迫、気合、仮想敵への目線の置き方、間

の取り方など、目には見えない仮想敵と対面する剣士として、さまざまな面を審査されます。演武中は無心でしたね。居合は「良く見せよう」「うまくやろう」と考えたらダメなんです。仮想敵とは自分自身。己に勝つことが居合道かもしれないですね。」

最後に「剣の魅力は？」と尋ねると「日本男児だからかな？」とちよつと照れくさそうに笑う平成の侍3人。

湖刀会では、年齢、流派を問わず居合の道を志す方を募集しています。申し込みは猪股さん(☎8264)



▲左から黒田さん、猪股さん、亀谷さん



遊遊 自適

高澤哲三さん(77歳)

新川町

『人生 常にチャレンジ精神』

老人クラブ活動の一環として、ゲートボールを定着させたいとの一念から普及活動に取り組み、ゲートボール協会の設立や競技資格審査委員として審判員の育成に努めてきた高澤哲三さん。

誰にでもできるゲートボールを通じた高齢者の健康増進や仲間づくりを目指し活動を続けて16年。今では全道大会にもたびたび出場し、会員が240名を超える大所帯となった登別市ゲートボール協会の会長として活躍しています。

「年をとるとどうしても家に閉じこもりがちですが、外へ出ていくな事にはチャレンジすることが大切ですね。ゲートボールはみんなが気軽に楽しみながプレーをするのができ、適度に体を動かすのでさわやかな汗をかくこともできるとても健康的なスポーツです。」と語る高澤さん。



「今年も仲間と一緒に、ゲートボールの練習に励む高澤さんには若さがみなぎっていました。」

「最近、北海道ゲートボール連盟の理事や北海道ゴルフ協会副会長として、幅広い活動を続ける高澤さんは「人生常にチャレンジ精神ですね。いつでも前向きな気持ちで好奇心を旺盛にしていくことが人生を豊かにする秘訣ではないでしょうか。」と話してくれました。

「今年も仲間と一緒に、ゲートボールの練習に励む高澤さんには若さがみなぎっていました。」

情報

あらかると

第10回 登別市民健康まつり

市は、「体を動かして健康づくりを！」をテーマに、第10回登別市民健康まつりを開催します。

▼日時 10月5日(日) 10時～14時

▼場所 しんた21

▼内容 すこやか健康ウォーク、エアロビクス無料体験、体脂肪測定、チェアボール体験など

▼問い合わせ 保健福祉課 (しんた21内 ☎01100)

※詳しくは広報のほりべつ9月15日号の折り込みチラシでお知らせします。

なお、すこやか健康ウォークとエアロビクス無料体験は事前

に申し込みが必要です。

▼すこやか健康ウォーク

しんた21を発着点に、6kmの距離を自分のペースで歩きます。

▼集合時間 9時～9時30分

▼出発時間 10時

▼定員 20名(申込順)

▼エアロビクス無料体験

▼集合時間 10時30分～11時

▼開始時間 11時

▼定員 30名(申込順)

▼申し込み すこやか健康ウォーク、エアロビクス無料体験い

ず

れも9月10日(水)から26日(金)までに保健福祉課

(しんた21内 ☎01100)

健康講演会を開催します

市は、中高年者の健康の保持・増進をはかるため、健康講演会を開催します。

▼日時・場所

9月27日(土) 13時～14時 鷺別公民館

9月28日(日) 13時～14時 婦人センター

講師 北川正樹医師 三愛病院 千葉泰二医師

テーマ 「中高年の目の病気」 「老年期の心の病気」

ターウォーズ、昂など全16曲
▼入場料(全席自由)
大人3千円、高校生以下(限定100席)1千500円

健康講演会を開催します

市は、中高年者の健康の保持・増進をはかるため、健康講演会を開催します。

▼チケット取扱先 市民会館、アーニス、市役所内母子会売店、総合体育館、イーストショップ、紀文堂書店(登別駅前)

▼チケット発売開始 9月16日(火)

▼問い合わせ 文化・スポーツ振興財団(☎1116)

▼参加料 無料

▼問い合わせ 保健福祉課 (しんた21内 ☎01100)

▼東京ポップスオーケストラ

コンサートを開きます

文化・スポーツ振興財団は、日本音楽会の巨匠、服部克久さん率いる東京ポップスオーケストラのコンサートを開きます。

▼月日 11月15日(土)

▼時間 開場17時、開演18時

▼場所 市民会館大ホール

▼曲目 シェルブールの雨傘、ス

ターウォーズ、昂など全16曲

▼入場料(全席自由)

大人3千円、高校生以下(限定100席)1千500円

▼チケット取扱先 市民会館、アーニス、市役所内母子会売店、総合体育館、イーストショップ、紀文堂書店(登別駅前)

▼チケット発売開始 9月16日(火)

▼問い合わせ 文化・スポーツ振興財団(☎1116)

▼参加料 無料

▼問い合わせ 保健福祉課 (しんた21内 ☎01100)

▼東京ポップスオーケストラ

コンサートを開きます

文化・スポーツ振興財団は、日本音楽会の巨匠、服部克久さん率いる東京ポップスオーケストラのコンサートを開きます。

▼月日 11月15日(土)

▼時間 開場17時、開演18時

▼場所 市民会館大ホール

▼曲目 シェルブールの雨傘、ス

ターウォーズ、昂など全16曲

▼入場料(全席自由)

日和山周辺の エゾリンドウ観察会

財自然公園美化管理財団は、登別山野草の会の方を講師に招き、エゾリンドウなど秋の野花の観察会を開催します。

▼月日 9月16日(火)(小雨決行)

▼時間 9時30分～11時30分

▼集合場所 森林浴コース入口(道道俱多楽湖公園線沿い日和山付近)

▼参加料 無料

▼問い合わせ 郷土資料館 (☎1339)

▼子犬・子猫の新しい飼い主探し

ベットの無料検診・飼育相談

胆振支庁は、動物愛護週間(9月20日～26日)にちなみ、子犬・子猫の新しい飼い主探しとベットの無料検診・飼育相談を行います。

▼月日 9月23日(火)(小雨決行)

▼時間 ○新しい飼い主探し:受

診

10時～17時(8日(月)は休館日)

▼対象 市内に居住する65歳以上の方

▼問い合わせ 郷土資料館 (☎1339)

▼子犬・子猫の新しい飼い主探し

ベットの無料検診・飼育相談

胆振支庁は、動物愛護週間(9月20日～26日)にちなみ、子犬・子猫の新しい飼い主探しとベットの無料検診・飼育相談を行います。

▼月日 9月23日(火)(小雨決行)

▼時間 ○新しい飼い主探し:受

診

10時～17時(8日(月)は休館日)

▼対象 市内に居住する65歳以上の方

▼問い合わせ 郷土資料館 (☎1339)

▼子犬・子猫の新しい飼い主探し

ベットの無料検診・飼育相談

胆振支庁は、動物愛護週間(9月20日～26日)にちなみ、子犬・子猫の新しい飼い主探しとベットの無料検診・飼育相談を行います。

▼月日 9月23日(火)(小雨決行)

▼時間 ○新しい飼い主探し:受

診

高齢者の方へ 郷土資料館 無料入館日のお知らせ

敬老の日にならなみ、次の期間は65歳以上の方の郷土資料館入館料を無料とします。

▼日時 9月6日(土)～9月15日(月)

10時～17時(8日(月)は休館日)

▼対象 市内に居住する65歳以上の方

▼問い合わせ 郷土資料館 (☎1339)

▼食中毒を防ぎましょう

食中毒の発生を未然に防ぐには、家庭での予防対策が大切です。

日ごろから次のことを十分に注意して、食中毒を防ぎましょう。

①こまめに手を洗う

②食べ物は十分に洗い、よく加熱

③冷蔵庫を過信しない

④調理器具は熱湯で消毒する

⑤調理後はできるだけ早く食べる

⑥おかしいなどと思ったらすぐ受診

市民見学会に参加しませんか

発展を続ける登別市の姿を市民のみなさんに見学していただくため、個人で参加する「ふるさと見学会」と、団体で参加する「団体ふるさと見学会」を行います。

意外と知らない自分の住む街を、この機会に確かめてみませんか。

◎ふるさと見学会

▶月日 9月23日(火)、27日(土)、28日(日)

▶出発時間 市役所9時、登別支所9時15分、鷺別支所9時40分

▶対象 市内に居住し、個人で参加を希望する方

▶定員 各日30名(定員を超えた場合は抽選)

◎団体ふるさと見学会

▶月日 9月17日(木)、22日(月)

▶対象 市内のサークル・団体(20～30名)など2団体

◎ふるさと見学会、団体ふるさと見学会ともに

▶見学施設 若山浄化センター、しんた21、グリーンコート三愛、天明登別ファーム、清掃工場など(変更の場合あり)

▶参加料 無料

▶昼食 各自で用意してください。

※各見学会は雨天決行です。

▶申し込み・問い合わせ ふるさと見学会は9月17日(木)まで、団体ふるさと見学会は9月12日(金)までに企画広報室(☎1122)



GOAL 北海道のほのべつ 北海道クロスカンントリーレース



◀ 昨年の北海道クロスカンントリーレース

このまちが 好き

大地を駆け抜ける

一陣の風になれ

果てしない大空と緑が広がる
札内の大平原で、風を感じなが
ら走るすがすがしさ。レースの
後は、地元特産和牛などのパ
ベキューを楽しみませんか。

◎ 第11回北海道クロスカントリーレース

- ▼ 月日 9月14日(日) 10時~11時
(受付8時30分~9時30分)
- ▼ 場所 札内大地(札内町33)
- ▼ 種目 6km、12kmコースは16歳以上、3kmコースは小学生以上
- ▼ 問い合わせ 10時30分から15時30分まで(土・日・祝日を除く)にクロスカンントリー実行委員会事務局(☎0599963)

となりまち

ホットライン

室蘭市

白鳥台の宅地を分譲します

室蘭市は、白鳥台の宅地を分譲します。来春開通する白鳥大橋の出入口に近く、洞爺湖、札幌方面への交通の便も良い白鳥台に、土地購入をお考えの方は、ぜひ一度問い合わせください。

- ▼ 分譲区画・場所 16区画、室蘭市白鳥台1丁目
- ▼ 分譲面積 267.75㎡~482.63㎡
- ▼ 分譲単価(1㎡当たり) 2万円00円~2万2千00円
- ▼ 申込期間 9月11日(木)~9月24日(水)
- ▼ 申込方法 室蘭市管財課に備え付けの用紙で申し込みください(印鑑が必要です)
- ※分譲価格表と位置図は、室蘭市管財課と室蘭市内の各サービスセンター・連絡所においてあります。
- ▼ 申し込み・問い合わせ 室蘭市管財課(☎0592273)

伊達市

伊達農業まつり(収穫感謝祭)へ
ご家族でお越しください



第18回伊達農業まつり実行委員会主催の収穫感謝祭が行われます。

伊達市内の農家で収穫した新鮮な野菜や畜産物などを豊富に取りそろえています。また、子どもが楽しめるコーナーも用意していますので、ご家族おそろいでお越しください。

- ▼ 日時 10月5日(日) 10時~15時
- ▼ 場所 だて歴史の杜カナルチャーセンター駐車場(国道37号沿い)
- ▼ 内容 野菜の即売、畜産品のPR・即売、綱引き大会、クイズ・ジャンケン大会、ゲームコーナー、露店コーナー、子どもの国(ミニ動物園、ポニーの乗馬)など
- ▼ 問い合わせ JA伊達市(☎01422181)



この広報紙は再生紙を利用しています。